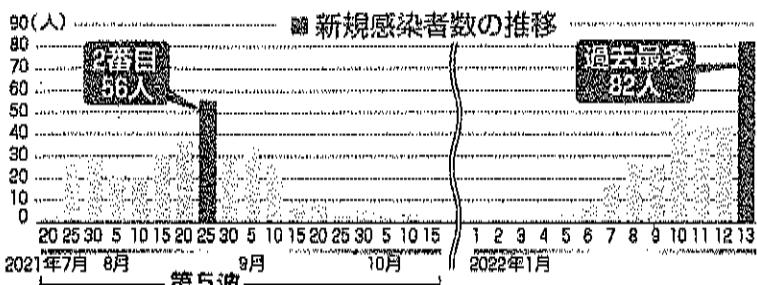


新型コロナ



県内最多82人感染

県「警報」に引き上げ

県は十三日、県内で過去最多の八十二人が新型コロナウイルスに感染していたと発表した。感染の急拡大を憂け、独自の警戒レベルを「注意報」から「警報」へと引き上げた。期間は三十一日まで。重症者らの医療体制を維持するため、陽性者は「原則全員入院」としてきた方針を改め、軽症者と無症状者は自宅での経過観察を可能にした。=新型コロナ関連⑨⑨⑨⑨⑨⑨⑨⑨

軽症者、自宅経過観察に

県対策本部会議が十三日、県庁であり、杉本達治知事が対応を決定した。会合後、杉本知事は過去最多の感染者数について「基本的な感染対策が特に重要といつ認識を強くしている。

気を引き締めないといけない」と述べた。

県内の一日当たりの最多感染者数は、これまで昨年八月二十五日の五十六人だった。人の移動が活発になる年末年始と一月の三連休が重なった上、感染力が強いことされるオミクロン株の

影響が出たところ。直近一週間の新規感染者数は一百九十一人と緊急事態レベルで、過去最多の二百九十四人に迫る。ただ大半が軽症か無症状で、病床占有率は

注意報レベルの半分に収まっている。警報発令に伴って県は、医師の問診で認められた場合に限り、軽症者と無症状者の自宅経過観察をスター

指標	福井県独自の感染評価指標			レベル1	レベル2	レベル3
	本連絡	定期	緊急	注意報	警報	警報以上
医療体制	確保病床数(425床)の占有率	9.9% (42床)	20%程度 (85~95床)	30%程度 (125~135床)	40%程度 (165~175床)	50%以上 (212床)
	うちICU確保病床数(24床)の占有率	0.0% (0床)	20%程度 (5床)	30%程度 (7床)	40%程度 (10床)	50%以上 (12床)
感染状況	直近1週間の新規感染者数(人口10万人当たり)	291人 (37.8人)	おおむね70~80人 (10人)	おおむね110~120人 (15人)	おおむね150~160人 (20人)	192人以上 (25人)

県は十三日、新型コロナウイルスの新たな変異株「オミクロン株」の市中感染例が県内でも初めて確認されたと明らかにした。杉本連治知事は「自分や周りがどう」かで感染すると思って基本的な感染対策をしっかりとやってもらいたい」と呼び掛けた。

本連治知事は「自分が感染しても、新型コロナに感染して検査した三百三十七人のうち三百十人がデルタ株陰性となり、疑いを含めたオミクロン株陽性率は92.8%とほぼオミクロン株に置き換わっている。

また昨年十二月二十八日以降、新型コロナに感染して検査した三百三十七人のうち三百十人がデルタ株陰性となり、疑いを含めたオミクロン株陽性率は92.8%とほぼオミクロン株に置き換わっている。

県は十三日、新型コロナウイルスの新たな変異株「オミクロン株」の市中感染例が県内でも初めて確認されたと明らかにした。杉本連治知事は「自分が感染しても、新型コロナに感染して検査した三百三十七人のうち三百十人がデルタ株陰性となり、疑いを含めたオミクロン株陽性率は92.8%とほぼオミクロン株に置き換わっている。

オミクロン 県内市中感染

本連治知事は「自分が周り

がどう」かで感染すると思つて基本的な感染対策をしつかりとやってもらいたい」と呼び掛けた。

県によると、三百十人才オミクロン株への感染が確定した十人のうち一人の感染経路が不明なため、県は市中感染例と判断した。

（長谷川寛之）

か宿泊療養施設のなかに、「原則入院」とするが、オミクロン株は症状が早く治まる傾向があるため、途中で自宅へ移す。感染拡大が統一すれば、医師による初期治療を経て、最初から自宅で経過観察になるケースもある。

県内の「陽性者・接触者サポートセンター」の看護師らがテレビ電話などで経過を観察し、症状が悪化した際には入院調整につなぐ。県はこの

日、軽症者の増加に備え、宿泊療養施設を五十九床増やし、三百七十五床とした。医療機関の四百三十五床を含む、県内では八百床を確保している。消費喚起策では、近隣府県民向けの旅行割り引きの新規予約の受け付けを十四日から停止する。